

県連ニュース

2022年12月 NO-545号



『武奈ヶ岳を目指して』

滋賀県勤労者山岳連盟

中高年の登山

比良雪稜会 糸井次雄

近年、高齢化社会の進展に伴い、自由時間が増えた高齢者が健康やスポーツに関心を高めており、日常の中でスポーツに親しむ人が増加してきています。

その中でも、登山は美しい大自然に接することができるとともに、気分転換や健康・体力の保持・増進にも役立つことから、多くの人々に親しまれており、中高年の登山人口も増加してきています。

しかし、最近では、険しい高山にもバス道路やロープウェイなどが整備され、比較的容易に登ることができるようになったことなどから、このような高山にも観光気分で気軽に出かける人々が増えてきました。その結果、残念なことですが、中高年の遭難事故も急激に増加しています。

登山は、足元が極めて不安定な場所での活動です。バランスを崩したら、時には谷底へ転落したり、滑落したりする危険が常にあります。また、間近に避難場所のない、急変する自然環境の下での活動ですから、天候が急激に悪化し、冷たい風雨が横殴りに吹きつけたり、時ならぬ吹雪になったりすると、登山者はたちまち体熱が奪われ、体力が衰えて動けなくなり、悲惨な遭難事故に発展する危険性をもっています。

さらに、登山は、登り下りの多い、長い道程での行動なので、体力の消耗が激しい活動です。自分の体力を過信し、登山の前日に夜更かしをしたり、無理な計画を立てたりすると、過労になり、取り返しのつかないことになりかねません。登山者は山の厳しさや怖さを十分認識し、決して山を甘く見てもはいけません。

登山は、高山に挑戦したり、低山でハイキングを楽しんだり、動植物などの観察をしたり、その楽しみ方は人によって様々です。その魅力の一つに四季折々の豊かな風情を十分楽しませてくれることがあります。「雪融け、新緑、昆虫や動物が目覚める春山」、「入道雲、高山植物が咲き誇り、涼風の吹く夏山」、「高い青空、澄んだ空気、紅葉の秋山」、といったように、山はいつでも、それぞれ趣の違った感動を与えてくれます。

それにも増して、低いところから遥かな高みを目指し、一步一步、息を切らして山道を登りつめ、頂上を極めたときの喜びは、生涯忘れられません。この素晴らしい克服感、充実感、快感こそがまさに登山の醍醐味と思います。

(参考図書 文部科学省発行「楽しい登山 中高年の安全な登山のために」)

2022年12月号 目次

- ・リレーエッセイ 比良雪稜会 糸井 次雄

【案内】

滋賀県の山、登山道の放射線測定山行 県連 赤坂山 11月26日
交流山行案内 愛宕山 ちごゆり山歩会 1月22日

【報告】

登山祭典報告 日本コバ・湖南岳友会
登山祭典報告 音羽山・ちごゆり山歩会
登山祭典報告 蓬莱山・山友会
登山祭典報告 皆子山・シャクナゲ遡行クラブ
登山祭典報告 山門水源の森、東ヶ谷山・比良雪稜会
登山祭典報告 釣瓶岳・彷徨倶楽部

初級登山教室 10月15日 北小松しし岩クライミング報告
水質検査・放射線測定山行報告
登山道の放射線測定結果 イン谷口～八雲ヶ原～金比良道
ステップアップ比良・シロタ谷越え
ステップアップ登山講座
南アルプス深南部 南アルプス・小無間山～大無間山
ヒヤリハットで済まなかった事故 報告

【県連関係】

第1回代表者会議事録と第8回理事会議事録
近畿ブロック自然保護委員会報告

- ・ぐうたら会長のつぶやき

【行事予定】

行事予定12月～2月

表紙の写真：「武奈ヶ岳を目指して」

2021.12.29 コヤマノ分岐辺りで撮影 比良雪稜会 川嶋文男

<案内>

県連自然保護部からお知らせ

下記の放射線測定山行を行いますので奮ってご参加下さい。

2022年度 滋賀県の山・登山道の放射線測定山行

山域：マキノ赤坂山～寒風峠

日付：2022年11月26日（土）

集合：JR堅田駅7：00、若しくはマキノスキー場高原温泉さらさ駐車場8：30

コース：マキノスキー場→谷川堰堤→送電線鉄塔→栗柄越→赤坂山→P841手前鞍部
→寒風峠→西山林道分岐

申し込み先：理事・田中武範(山友会) メールアドレス：t.y.tanaka1@outlook.jp;
携帯番号：090-6829-3734

申し込み締切り：11月22日（火）午後8時

※申し込みをされる方は、住所、氏名、所属会名、年齢、血液型、遭対基金口数
携帯電話番号を記載ください。

問い合わせ先 県連理事：田中武範（090-6829-3734）

2022年 12月号

交 流 登 山

- ◎「交流登山」とは・・・県連の各会の枠を超えて、他の会の会員と楽しく交流を深めながら山行に参加できるシステムです。（但し、この指定された山行のみとなります）
- ◎「参加申込み方法」・・・行ってみたい山行の申込先へメールで申し込むだけです。
申込みは⇒「所属会名・氏名・住所・生年月日・ケータイ番号・血液型」が必要です（登山計画書所定項目）

登山日程	2023年1月22日(日)	企画会名	ちごゆり山歩会
山域・山岳名	愛宕山（あたごやま・標高 924m・京都市右京区）		
集合場所・時間	JR 嵯峨嵐山駅（トロッコ側ロータリー付近） 午前8時40分		
山行時間	約6時間		
参加受付	ちごゆり山歩会 濱本 健二	メール ケータイ	tanmore@maia.eonet.ne.jp 090-3929-3869
受付締切	1月8日(日)まで ※下記の申込み者情報を厳守願います		

※**申込時の注意**—申込は必ず**メール**で願います（内容の問い合わせは、ケータイでも結構です）

① 所属会名 ② 氏名 ③ 住所 ④ 生年月日 ⑤ 携帯番号 ⑥ 血液型

※申込者の情報は、登山計画書の作成に必要となりますので、間違いのないよう願います。

◇コース詳細

JR 嵯峨嵐山駅 → （京都バス）野々宮バス停 → 清滝バス停 →
（表参道） → 荒神峠 → JR 保津峡駅



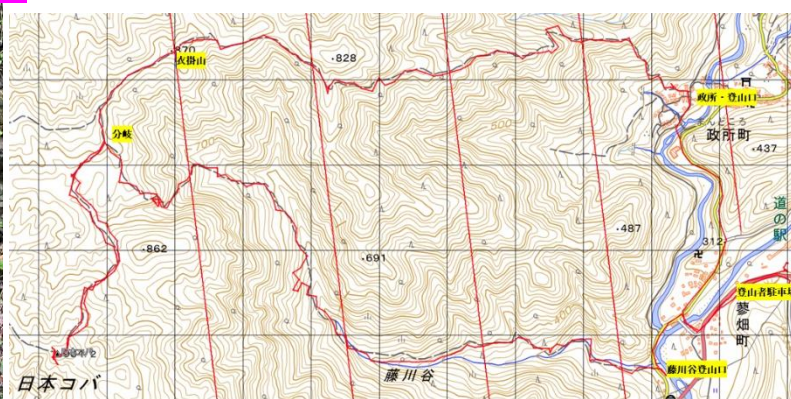
「日本コバ」 山行報告

実施日：2022年10月23日 天気：曇りのち快晴・微風 参加者：CL 村田 SL 重井 他12名

日程：野洲駅 6:10 集合⇒竜王 IC⇒奥永源寺溪流の里・登山者駐車場 7:30
登山者駐車場 7:50⇒藤川谷・登山口 8:05⇒ヒョウの穴 9:07~9:13⇒岩屋・休憩
9:55~10:10⇒分岐 10:20⇒日本コバ山頂・昼食 10:50~11:30⇒分岐
12:00⇒衣掛山 12:15⇒休憩 12:35~12:42⇒下山（鈴鹿10座日本コバ登山口）・休憩
13:10~13:40⇒登山者駐車場 14:00 行動時間:6時間10分

夜中3:30頃激しい、雨天決行と決め再び布団の中へ、早朝登山支度を整える頃には雨はあがり回復の兆し、すがすがしい秋晴れのなか少し紅葉した葉っぱが秋の日差しに映え美しい
藤川谷をつめ登るコースは「ヒョウの穴」「岩屋」と石灰岩特有の地形が登山者を迎え急な登りを癒してくれる。三等三角点の山頂に着き少し早い昼食とする、以前よりはだいぶ広くなった山頂だが木々の葉っぱで展望はきかない。11:30秋晴れの中政所に向かって下山開始、登山道は良く整備され快適に下山政所の茶樹の標識で休憩し道の駅「奥永源寺溪流の郷」向の登山者駐車場へ向かう。

藤川谷登山口ここから登る



ここへ下山した



何回か渡渉を繰り返す



唯一急な登り



快適な縦走路



音羽山

実施日 2022年10月23日

コース 京阪膳所駅—びわ湖放送—音羽山—逢坂山陸橋—蟬丸神社—長安寺—JR大津駅

参加者 会員12名 一般10名 合計22名

昨夜来の雨も上がり、まずまずの天気にも恵まれ膳所駅のローターリーに集合した参加者は柴田会長の挨拶、配布された地図でコースの説明を聞き、田村さんの指導で準備体操を行った後4班に分かれてそれぞれ出発する。(9:15) 国道1号線を渡り住宅街の中を調子を整えながらゆっくり登って行く。陽が当たり汗が噴き出してくる頃にびわ湖放送に着く。(9:43) 一息入れると山道に入っていく。しばらくの間急登が続く樹木を掴みながらジグザグに登って行く。傾斜が緩やかになると鉄塔が現れ(10:15) 振り返ると今まで歩いてきた市街地や琵琶湖が見下ろせ緩やかな風が心地よい。ここからは傾斜も緩くなり大津方面の分岐を右に分け広い歩きやすい尾根を登って行く。杉や広葉樹に囲まれた日陰が暑さを押え大いに助かる。足下には朴葉が落ちているがほとんどの樹木は紅葉が進んでいなく、落葉もしていない。やがて東海自然歩道と合流し(11:16) なだらかな道を少し行くと鉄塔が現れ休憩の椅子が設けられた音羽山山頂に到着。(11:25~12:20) 頂上から琵琶湖、比良、比叡の山並みや京都市街が見下ろせ360度の展望を楽しむ。日陰を選び班毎に休憩昼食、温かいお茶を飲みながら最近の出来事や山行談議に花を咲かせ楽しいひと時を過ごす。十分な休憩をとり下山にかかる。頂上からは下山するコースが見下ろすことができ気持ちを引き締め下り始める。登りの合流地点を過ぎ路傍休憩所で一息入れ、(12:35) 無線中継所を過ぎてからの長い階段を膝に負担をかけないように丁寧に下りる。傾斜が緩やかになると車の音がだんだん大きくなり多数の車両が行きかう国道1号線を見て陸橋を通り、少し先の蟬丸神社へ着く。(13:43) ここまでくれば危険な箇所はなく参加者一同ほっと一息する。ここからは旧東海道線のトンネル碑を横に見て大谷団地の中を通り大谷乗馬場で馬が2頭ゆっくり歩いているのどかな風景を見ながらなだらかな鞍部を越え、長安寺ではお寺の由来を知り、拝観をしてJR大津駅に無事到着する。(14:50)

音羽山

急な登り



登山祭典 小女郎池と蓬萊山(1,173.9m) 報告 (山友会)

～青空の下、比良山系の山々と琵琶湖の絶景を楽しむ～

【日時】2022年(令和4年)10月23日(日) 【天気】晴れ

【参加者】T田(CL) 他会員21名 一般2人 計24名

【データ】距離13.2K 累積標高差1,330m

行動時間7時間23分

【コースタイム】

7:55 蓬萊駅発(95m)→9:02 薬師の滝(515m)9:08

→10:53 小女郎峠(1,075m) →11:00 小女郎ヶ池

(1,065m)昼食 11:35→12:10 蓬萊山山頂(1,173.9

m)12:13→12:45 打見山山頂で解散(1,108m)→

13:13 クロトノハゲ(950m)13:23→13:50 天狗杉

(725m) →15:21 志賀駅(90m)着

【内容】

小女郎ヶ池にて→



山友会の登山祭典は、比良山系の小女郎ヶ池と蓬萊山です。蓬萊駅に降り立つと予想に反して天気が良い、出発時は蓬萊山に少しガスがかかっていたけど、登って行くに従い消えていったようでした。

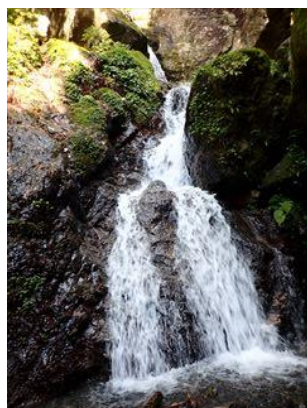


さて一般2名を含む24名が蓬萊駅を7:55にスタート、最初はアスファルトの道を緩やかに登って行く。しかし、この緩やかな道がくせ者で、なかなかしんどい。それに今日は10月下旬にもかかわらず暑い。途中衣服調整をしながら進み、堰堤下で休憩をとる。ここからが山道の本番。道はジグザグの石も多い道を進む。しかし、木陰もあって先ほどのロードより数段快適。そのうちに薬師の滝について川底まで下りて、下から薬師の滝を見る。ここは涼しい。さてこれより石が多くなり、2～3回の渡渉をして徐々に標高を上げていく。標高950mを越えたあたりから、あたりが明るくなり木陰を作っていた木々がなくなると同時に日光が当たり始めた。暑い。間もなく小女郎峠に到着。こ

まで登れば、小女郎ヶ池はすぐそこだ。

11時に小女郎ヶ池に到着。ここで昼食タイム。今日は、絶好のハイキング日和、昼食も終わり写真を撮ろうとしたら、訪れる人でいっぱい。流石、秋の日曜日ですね。記念写真を撮って出発。蓬萊山頂まではあと少しの登りです。道脇には、オヤマリンドウが可愛く咲いていました。12:10蓬萊山山頂に到着。展望を楽しみ、三座同定し、写真を撮り出発。ここからは下り。ちょっと楽です。鞍部で休憩タイム。そして打見山山頂までの登り返しです。そして打見山頂で解散、ゴンドラ下山する人、歩いて下山する人、分かれて下山しました。

歩いて下山組はクロトノハゲを通り、天狗杉を通り約2時間半をかけて志賀駅まで下りました。標高90mくらいから1,100mくらいまで、登って下るこのコースはけっこうハードだと思いました。(^^ (記 Y森)



薬師の滝



間もなく小女郎峠です



蓬萊山に向かいます

登山祭典報告

「皆子山」

シャクナゲ遡行クラブ

実施日 2022年10月23日（日）

参加者 太田(報告)・我妻・小枝(岳友会)

報告

我妻さんが、車の運転に自信がないということで、小野駅と小出石の2か所を集合場所とし、軽車両1台でヒノコへ向かった。百井へ至る途中の峠の手前で、清水を給水する人達がおられた。

大原が濃い霧で、天候が心配になったが、ヒノコでは何事もなく、暑くも寒くもなく、絶好の日になりそうな予感がした。

修道院の真横から山道に入る。道は前回より踏まれている印象だった。しかし、コースに入ると赤テープが、なぜか減っていた。小枝さんがテープをはがす事を善しとする登山者がいると、教えてくれた。

落ち葉は未だ少なく、秋の景色らしくなかった。

高度が上がると、皆子山の頂上らしい姿が、山並みの向こうに望めた。アップダウンを繰り返す。足元を心配するような場所はなく、会話がはずんだ。

3時間程かかって頂上に着いた。他に登山者が10人いた。比良山が近くに見え、武奈ヶ岳まで望めた。

引き返すコース設定だったので、心配は少なく、キノコを探しながら下った。キノコは見つからず、次回に期待したい。

2人は、コースの評価は良かったようで、僕も今の体力に見合ったコースのように思う。また、季節を変えて訪れたい。

以上

登山祭典 比良雪稜会 報告

湖北 山門水源の森～東ヶ谷山 (657.5m) ～大浦越

<日時> 2022年10月23日(日) 天気:晴れ時々曇り

<コース> JR 堅田駅(7:30)＝小野駅・和邇駅＝(バス)＝西浅井町山門・山門水源の森入口ー山門水源の森巡りー東ヶ谷山ー大浦越ー161号敦賀市山中＝(バス)＝JR 和邇駅・小野駅・堅田駅

<参加者> 1班 13名(会員6・一般7) 2班 11名(会員5・一般6)

3班 12名(会員5・一般7) 4班 11名(会員6・一般5)

計 会員 22名 一般 25名 合計 47名

7:45 和邇駅出発。天気予報は曇りで夜中に雨が降っていたが朝からまずつの天気。

バスは満員、笑顔が一杯。賑やかだ。途中で3名ピックアップ。

バス車内で会長から挨拶・コース説明と注意事項等があり、続いて班分けの発表。

9:00 道の駅追坂峠。トイレ休憩。ここで受付をした後、手指消毒し乗車。

少し風が吹いて肌寒い感じ…。

9:35 山門水源の森入口到着。駐車場で全員揃って体操の後、他の場所からの植物等を持ち込まない様靴の裏を洗い入場。今日は受付の方が居られないと聞いていたが、女性が出迎えてくれる。こちらが行くと伝えたので「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会」の前会長夫妻がわざわざ来て下さったのだ。有難かったです。協力金を支払い、受付を済ます。詳細なパンフレットを全員頂く。

10:05 出発。沢道コースを通る。歩いているとヤマユリ(花は6月頃開花)の周りを網で囲って保護されているのを見かけた。深い色のリンドウ、センブリ。花がちらほら咲いている。足元にはイモリがいた。ひょいと裏返すと体が赤い。アカハライモリというそう。紅葉が始まっていましたが見頃は11月中旬。途中草刈りをされている方と出会う。ご主人の前会長であった。大事な森を「…引き継ぐ会」が守っているそう。感謝しながら歩いていく。

かつてこの土地は炭や薪作りに利用されていた里山で、そのころは手入れがされていたが、その後森は放置されてしまい里山としての環境が失われてしまいました。現在は「…引き継ぐ会」が中心となり保全活動をされているそうです。



10:35 南分岐まで来て、散策コースに行く。途中、四季の森の看板あり。

11:00 北分岐。アカガシが沢山生えている。かつてアカガシは炭の材料として使われたそうです。

歩いていくと、サメが口を開けている様なジョーズ岩。

11:40 そして森の最上部まで来る。この辺が最高地点で520m程。

少し戻って守護岩を確認し、ブナの森を見る。紅葉にはまだ早かった。アカガシとブナ、アカガシは温暖な気候を好み、一方のブナは寒冷な気候を好む、この両方が一緒にあることがあまりないそうです。森に別れを告げて、余呉トレイルの尾根に乗り、東ヶ谷山に向かう。

12:00 日本海(敦賀湾)と琵琶湖の両方が見える景色の広がるところに出る。ここで昼食。

少し風があったので風を避けられる場所でほっと一息。来年は野点が出来ればいいですね。

12:30 全員での集合写真を撮る。

12:40 しばらく行くと会長がふと「この道間違っているんじゃないか?」と気が付き、戻った。

道が分かりにくくなっている。

- この後急坂があり、山道らしくなった。雲が掛かり少しぼつぼつと雨が降ったが大丈夫みたいだ。
- 13：10 東ヶ谷山到着。山頂は狭いので班毎に写真撮影。この東ヶ谷山から戻る人が多いらしく、この先は入る人も少ないらしい。道が分かりにくく、皆で調べながら進む。
- 13：50 又道を間違えた様で後ろから呼ばれる。1班は引き返した。間違うと誰かが気が付いてくれて教えてくれる。比良雪、連携プレーです！
- 13：55 鉄塔に到着。少々休憩。琵琶湖を眼下に眺める。日が照ってきた。
- 14：15・・・あれ？又道を間違った？ 後ろの人がついてこない。でも、こちらで合ってます。2度間違ったせいか信用されてないかも！ ふと見ると熊の爪痕の様なひっかき傷が木についていた。鞍部に下りる。大浦越えである。これよりゆるやかな古道を下る。
- 14：35 ススキの覆う道に出る。でもススキ等はきれいに刈られて歩きやすくなっている。実は4日前に会員4名で草刈りを実施していたのである。
- 14：45 国道161号脇へ下山。人数点検後 待っていているバスまで車に注意しながら国道を1列で歩く。
- 15：00 バスに乗り込み出発。道の駅追坂峠でトイレ休憩。
- 15：40 追坂峠からはメタセコイヤ並木の紅葉を見ようと回り道してもらったが、少し色づき始めたところだった。見頃は10日から2週間位後のようだ。それでも並木道は観光客でいっぱいであった。
- バスが蓬萊駅に近づく辺りで副会長から締め挨拶。皆さんお疲れ様でした。

ハイキングの様な比較的軽めのコースで皆さんケガもなく元気で下山出来て良かったです。私個人的に山門水源の森は以前から行きたい場所だったので希望が叶いました。公共交通機関が無い場所で行きづらい場所なので、今回の様にバスで行けてラッキーでした。花も沢山あるので春は見応えがあるのでは？ 何度も訪れてみたい山域でした。

(記：E.K)



東ヶ谷山に続く余呉トレイル尾根の展望地にて全員集合

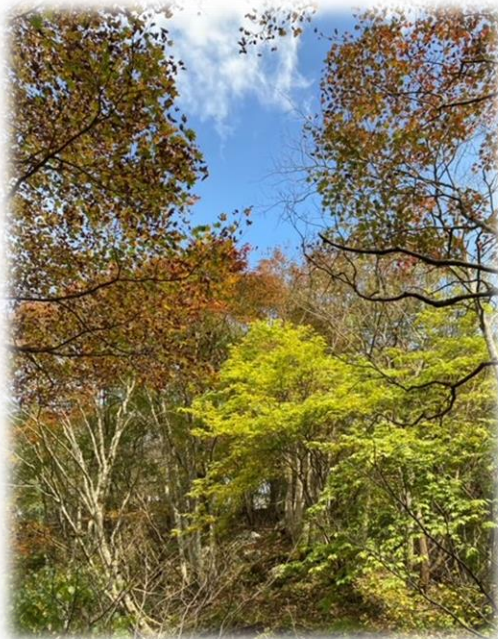
◇山域 **比良・釣瓶岳（つるべだけ）**（1098m）

◇参加者
 ・彷徨倶楽部： T内・N森・Y元・T内
 ・滋賀山友会： M野
 （計 5名）

◇ルート
 イン谷口（8:14）→ 大山口 → 北比良峠（10:10）→ 八雲ヶ原 →
 → イブルギノコバ（10:50）→ 広谷 → ナガオ → 釣瓶岳（12:50）→
 → 細川越 → 広谷（13:55）→ 北比良峠 → ダケ道 → イン谷口（16:12）着

◇今回の登山祭典は、滋賀山友会からの参加があり少人数ながら交流のある山行となった。
 朝少し雲が見受けられたが、ほぼ終日お天気に恵まれ暑くもない絶好の登山日和となった。紅葉にはほんの少し早かったが一部の樹木では紅かったり黄色く色づいていて楽しい気持ちにさせてくれた。

今回のルートでは登山地図にないルートを予め計画した上での行程で、少しの時間ではあったが、踏み跡のない道を進んだ。山友会から参加のM野さんは持参されたハンディーGPSを駆使し、“パリエーションルート”と呼び、結構楽しく確認をされていた。（下記地図の黒線部分）



～気持ちのよい日に恵まれて～



「シロモジ」の葉



〈2022年度 初級登山教室報告〉

北小松しし岩 ゲレンデクライミング

日時：2022年10月15日(土) 晴れ

講師及びスタッフ：T内(彷徨倶楽部) N森(彷徨倶楽部) K嶋(比良雪稜会) K口(滋賀山友会)

受講生：S水(比良雪稜会) S藤(比良雪稜会) T本(滋賀山友会) S口(滋賀山友会)

行程：比良元気村の先の駐車場 8：35 出発～9：05 しし岩着

9：30 しし岩(南)クライミング～11：20～しし岩(北)クライミング～13：30 昼食～

14：10 しし岩(北)で垂直下降練習～15：50 下山開始～16：30 駐車場着

〈 講習内容 〉

(1) マルチピッチクライミング

【 しし岩(南)1ピッチ → しし岩(北)2ピッチ 】

- ①リードクライマーがプロテクションをセットしながら登る。登り始める前にゼロピンをセットする。(リードが落下時、ビレイヤーが引きずり込まれるのを防ぎ衝撃を軽減するため)
- ②セカンドがビレイする。セルフはメインロープで取る、右手(引き手)を常にロープから離さない、リードの動きを常に観察してタイミングよくロープを出していく。ロープの残りが少なくなったら「ロープいっぱい」とコールをする。
- ③サードで待機する者もメインロープでセルフを取り、ロープの捌きなどの協力をする。
- ④リードが支点を構築して合図があれば、「〇〇登ります」のコールをし、セルフビレイを外しセカンドもサードも登る。その際、ロープのテンションを確認して弛んでいる状態で登らない。また、クイックドロワーを回収していく。
登り切ったら素早くセルフビレイを取って、「ビレイ解除」をリードに伝える。
- ⑤2ピッチめはリードを交替するが、実力差があるため同じ者がリードをする。セカンドとサードは交替した。2ピッチめでリードをビレイする場所(テラス)は足場が狭くロープを出していくのも慎重に行った。

(2) 懸垂下降

【しし岩(北)頂上から下降する】

- ①セルフビレイを確実に取る。
- ②シングルロープでは下までの長さがたりなかったため、ダブルロープを使用。(オーバーハンド・ノットで結束)
- ③ロープ投下・・・投げおろす前にロープを二つに振り分けておく。「ロープダウン」とコールして二回に分けて投げおろす。

- ④バックアップを取り付ける・・よじれや重なりがないようにフリクションを巻きつけた後、引き手でロープ2本を引いてストップがちゃんと効いているか確認をする。(バックアップはビレイデバイスよりも下に取り付ける。)
- ⑤ビレイデバイスを取り付ける・・ハーネスのタイインポイントに結んだ短めのスリングやPASを利用して、身体から少し離れた位置にビレイデバイスを取り付けてから、ロープを2本同時に通す。
- ⑥制動テスト・・手袋を付け、ビレイデバイスを支点到近づけ、引き手でロープを引き体重をかけて停止できるかを確認する。
- ⑦下降開始・・下降する合図をしたら、右手(引き手)を強く引いたまま左手でセルフビレイを解除してロープに付ける。体重を後ろにしっかり預けて岩に直立するような姿勢で時々下を確認して下降する。
- ⑧着地して安全が確保できたら、ロープをビレイデバイスから外して、ロープを整えて次の人に「どうぞ」とコールする。

〈 一口感想 〉

「初級登山教室も来年1月の雪山ハイクを残すのみとなりました。受講生の皆さんは地図読みやロープワークについて当初に比べると理解と自信もできてきたと考えています。

読図とクライミングは登山の分野は違いますが『危険を回避する上で必要で身体で覚えるもの』ということが理解できれば楽しく安全な登山につながります。今後も機会を見つけて続けることが大切です。」(T内)

2ピッチ目でランナウトを嫌ってルートが屈曲気味になってしまったのはちょっと失敗でした。自然の岩相手ではある程度の試行錯誤は欠かせませんが、狙いをできるだけ外さないためには、やはり経験の積み重ねが重要だと思います。

経験を生きた技術として身体化しようと思えば、原理を学ぶことと実際に体験することのサイクルがカギになります。

実技の体験と資料や説明を突き合わせて、動作とその意味が結び付き、適確な判断が下せるようになるまで、繰り返し復習していただければと思います。(N森)

今回本格的な傾斜での講習でしたが、概ね皆さん理解されていると感じました。セルフビレイもテラスなど落ちると軽症で済まない所はされていました。しかし終了点などでは安堵されたのか忘れる場面もありました。今後は今まで学習した事を忘れないように努めていただき次のステップを目指してもらいたいです。(K口)

獅子岩、今までの金毘羅山のゲレンデに比べると難度もアップしているので、受講生の皆さんも少し苦戦しておられたのかなあ…。それでも全員がしっかり登られて、遅く思いました。登山教室もいよいよ後一回となりました。お天気に恵まれた登山教室でしたが、最後まで無事故で終了出来るよう、慎重に行

動するよう心掛けたいと思います。(K嶋)

初めてビレイ体験をさせて頂きました。ロープが絡ってトップの人の登りを妨げてしまい、ロープの片づけ、運び方からきちんとしないといけないことを身をもって知らされました。講師&受講生の皆さんには、本当にお世話になりました。有難うございました。(S藤)

初めてのしし岩でのクライミングは、なかなかハードなコースだった。少しの出っ張りやくぼみなど、あまりはっきりとしないスタンスが多く、足を置いていて滑らないかヒヤヒヤしながら登ることが多かった。

また、手をかけるホールドも縦のクラックに指先を入れて体を支えるなど、三点確保の体勢をどう保持しながら登るか考えながらの登攀だった。

足のつま先が痛くなるクライミングシューズが意外としっかりと岩を捉えて登りやすかった事にも感心した。

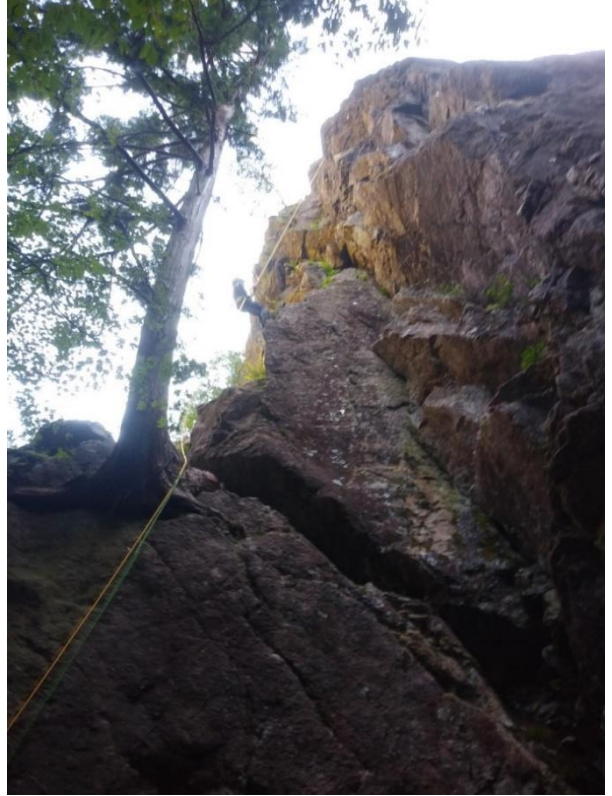
最後の懸垂下降は、壁の形の影響もあるが、体重のかけ方と降りるコース取りが思うようにいかなかった。回数を重ねてスムーズに降りられるように練習したいと思った。(T本)

しし岩に場所を移したクライミング最後の実技は、距離も長く手がかりも難しくて、ハードだった。特に2回目のクライミングは2ピッチに分けての登りとなり、必死で登っていくと、リードのN森さんが狭いテラスでロープをあげてくださっていた。ありがとうございます。最後、他のチームとロープが重なってしまい、狭い場で跨ぐのに苦労した。ロープでつながっていることで安心して登ることができるが、安全に登るためには周りをよく見て状況を判断しながらの行動が必要であることを改めて感じた。

懸垂下降では途中で岩から足が離れてしまい、宙ぶらりんになった。怖くはなかったが、すぐにフリクションを緩めることができず手間取った。ロープの結び方が何度聞いてもわからずモタモタしていたところに比べたら少しは成長できたかな？教えていただいたことがすぐに消えてしまうので、忘れないようにしたい。ご指導ありがとうございました。(S水)

岩を登る途中で、初めて「怖い」と感じた研修だった。今までの岩より手強いことは覚悟していたが、他の人のクイックドロウにロープが絡まったり、他の人のロープと交差したりといったことは、想定外だった。ギリギリ踏ん張っている体勢からそれらを一つずつ解決していくには、あまりに未熟であった気がする。それぞれ任された持ち場の役割があって、その場で解決するのは自分しかいないことにも気づく。いつもより危険を身近に感じることで、すぐにセルフビレイを取るとか、カラビナの安全環のネジの確認を怠らないといった基本の重要さが身に染みたことは大きな収穫だった。

帰ってN森講師の資料をもう一度読んだら、私たちがやるべきことをまだまだ任せられずたくさん講師の方々がカバーしてやって頂いてのだと気づく。ありがとうございます。(S口)



<比良雪稜会山行報告>

水質検査・放射線測定山行②コース

(日 時) 令和4年11月3日(木・祝) 晴れ

(参加者) K藤(CL)、H池(SL)、F川(測定)、Y口(Y)(装備)、K藤(記録) 計5名

(行程) 和邇河川敷集合(7:00) — イン谷口(7:45) ~ 大山口(8:15) ~
カモシカ台(9:15) ~ 北比良峠(10:15) ~ 八雲ヶ原(10:40) ~
金糞峠(11:40) ~ 南比良峠(12:30) 昼食~荒川峠(13:30) ~
中谷出合(15:30) — 金毘羅神社(16:15) — 和邇河川敷・事務所
(16:45) 解散

7時ちょうどに全員が和邇河川敷に集合し、2コースに別れて出発しました。少し薄曇りの空模様でしたが、徐々に天気は回復し、秋晴れの山行日和となりました。

イン谷口の登山口の駐車場はほぼ満杯状態で、狭い駐車スペースに停めるのに一苦労しました。測定機器の準備を整え、柔軟体操をして、いざ登山開始です。

川のせせらぎの音を聴きながら、紅葉の始まった森林の中をゆっくり歩き始めました。とても気持ちの良い清々しい気分です。高度が上がるにつれて少し汗をかきますが心地良い風が気分を和らげてくれます。途中の放射線測定と水採取がちょうど良い休憩時間になります。北比良峠から見える紅葉の山肌と、琵琶湖から舞い上がる雲海との組み合わせが最高です。黄色や真っ赤に色づいた葉に逆光が射し、色彩がより鮮やかに輝いて見えます。みんなで何度も「キレイ」を連発、今日の山行に参加できた幸せ感を満喫しました。

南比良峠でもう一方の①コースのメンバー3人と合流し、8人で記念撮影です。

我々はここで昼休み休憩をとりました。

その後、途中の荒川峠では負傷した登山客に出会い、鎮痛薬を提供するという人助けもしました。普段から常備薬を携帯することの大切さを実感しました。

なが〜い下り道を下り終えて、車に乗り込み、やっとこれで終わりかと思いきや最後に過酷な測定地が残っていました。金毘羅神社の急な坂道は本当にこたえました。

全ての測定を終え和邇河川敷に着いた頃には陽も比良の山に沈み、夕焼けの空が広がっていました。



写真提供 K藤・K藤

登山道の放射線汚染マップ作成のための測定記録票

日本勤労者山岳連盟・比良雪稜会

測定山域名 滋賀 県 比良山系		登山口及び登山ルート イン谷～八雲ヶ原 ～荒川峠～中谷出合→金比羅神社		
測定年月日 2022年11月3日(時間帯 7:50～16:20		の間) ①晴 ②雨 ③曇 ④雪		
測定者氏名 F川 連盟・会名 滋賀県連 比良雪稜会		記録者氏名 H池 連盟・会名 滋賀県連 比良雪稜会		
測定参加者名 (Y口)(K藤)(K藤)() () () ()				
測定機種 ①HORIBA PA-1000 Radi ②				
	標高/ 登山口から分	北緯/東経	測定結果 (μSv/h)	測定した場所はどのようなところか (休憩場所・沢や水の流れの近く・落ち葉が堆積しているなど具体的に)
1	標高m 253	北緯 35° 14' 12	地表 1m 0.094	イン谷口 二股に分かれるアスファルトの車道
	登山口から 測定時間 7:50	東経135° 55' 52		
2	標高m 404	北緯 35° 14' 30	地表 1m 0.166	大山口 川横、足元は土と石
	登山口から 測定時間 8:15	東経135° 55' 17		
3	標高m 704	北緯 35° 14' 46	地表 1m 0.133	カモシカ台 木々に囲まれたやや開けた休憩所、土
	登山口から 測定時間 9:20	東経135° 55' 12		
4	標高m 984	北緯 35° 15' 11	地表 1m 0.104	北比良峠 広い峠、草地、枯れた松の横
	登山口から 測定時間 10:20	東経135° 54' 49		
5	標高m 922	北緯 35° 15' 30	地表 1m 0.080	八雲ヶ原水場 湿原横林の中、テント場、小さな流れ
	登山口から 測定時間 10:45	東経135° 54' 36		
6	標高m 896	北緯 35° 15' 51	地表 1m 0.141	金糞峠 木々に囲まれ、足元は土
	登山口から 測定時間 11:40	東経135° 54' 23		
7	標高m 935	北緯 35° 14' 14	地表 1m 0.073	南比良峠 下草が広がるなだらかな林
	登山口から 測定時間 12:56	東経135° 54' 23		
8	標高m 989	北緯 35° 14' 11	地表 1m 0.109	荒川峠 林に囲まれた峠、足元は枯葉
	登山口から 測定時間 13:25	東経135° 54' 17		
9	標高m 561	北緯 35° 14' 14	地表 1m 0.164	荒川峠道湧水 登山道上、大きな岩の下から水が湧き出ている
	登山口から 測定時間 14:45	東経135° 54' 34		
10	標高m 369	北緯 35° 13' 7	地表 1m 0.120	中谷出合 登山口、アスファルトの車道、谷筋
	登山口から 測定時間 15:20	東経135° 54' 40		
11	標高m 430	北緯 35° 11' 55	地表 1m 0.092	金比羅道湧水 谷筋、林、アスファルト道路脇
	登山口から 測定時間 16:20	東経135° 53' 39		

ステップアップ比良・シロタ谷越

2022年10月1日(土)晴れ 参加者 4名

コース:タイム 黒谷バス停 8:00…シロタ谷越分岐 8:25…シロタ谷越 8:50…9:45 笹峠 10:20…横谷峠 11:05…畑バス停 12:05

黒谷バス停で下車すると少しひんやりする。林道を栗木田谷方向へ進む。栗木田谷分岐を右へ。夏場は草に覆われ見逃し易い所だ。程なくイン谷の小橋を渡る。此処がシロタ谷越えの取り付き点。薄暗い樹林帯に足を踏み入れる。沢沿いを進むと周りは古い棚田跡が広がっている。段々になった棚田跡を一段づつ進んで行くと広くなったシロタ谷越えに着く。この先、笹峠まで急登が続く。取り付きはルートが不明瞭でルーファイが必要だ。傾斜が緩くなると程なく笹峠に飛び出す。ユックリ珈琲タイムと行こう。後は縦走路を、のんびりと進んで行く地蔵峠を過ぎると急下降。この辺りは林道工事の為、木々が伐採され痛々しい。杉の植林帯を進むと落葉樹の多い横谷峠に到着。もう少し経てば、この辺りは紅葉で彩られ綺麗な風景を見せてくれるだろう。此処から縦走路を離れ畑へと下って行く。まだ少し暑さの残る山行だった。 山友会 豊田



南アルプス深南部・小無間山～大無間山

--- ステップアップ登山講座 2022 ---

其阿弥道子(比良雪稜会)

日程 2022年11月4日夜～6日(日)

講師 秋田 誠

受講者 塚本 正弘(滋賀山友会)、福井敏文(滋賀山友会)、其阿弥道子(比良雪稜会)

行程

11/5 田代集落登山口 8:35--小無間小屋 12:00

11/6 小無間小屋 5:30--小無間山 8:30～8:40--中無間山 9:25～9:30--大無間山 10:45～10:55--中無間山
11:55～12:00--小無間山 12:50～13:00--小無間小屋 15:30～16:00--田代集落登山口 18:25

前回のステップアップ登山講座は天候に恵まれず、日帰り山行となりましたが、今回は無事実施となりました。無人小屋泊でテント装備は不要でしたが、水場がないため日数分の水分と炊事用の水を持ち上げなければなりません。気温もぐっと下がるとの予報もあり、ザックの重さを考えながらの準備でした。

11/5(土) 快晴

前夜、名神高速から新東名高速へ乗継ぎ静岡入りし、道の駅で仮眠した後登山口へ。メンバーのひとりが毎日の日課にしているというラジオ体操を皆で行い、身体をよくほぐして出発しました。山の麓は紅葉が盛りでした。講師よりこの時季は落ち葉に隠れている石や木の根で滑って足首を捻る事例が多いとの注意がありました。いきなりの急登でしたが、道はしっかり踏まれていました。幾度か尾根を踏み替えながら登りきると、すっかり葉を落とした木々の奥に青い屋根の小屋が現れました。



小無間小屋

小屋の内部はこじんまりしたワンフロアで片隅に炉が切っており、半分は寝られるようにアルミのマットが引き詰められていました。昼食後小屋の中で、スリングを使った簡易ハーネス作成、カラビナバッチマン、ムンターヒッチ、心肺蘇生法、外反ねん挫テーピングの講習を受けました。

夕食はボイルしたウィンナーを肴にワインとウイスキー(持ち上げて頂きありがとうございます)で乾杯。キムチ鍋を完食し、就寝しました。



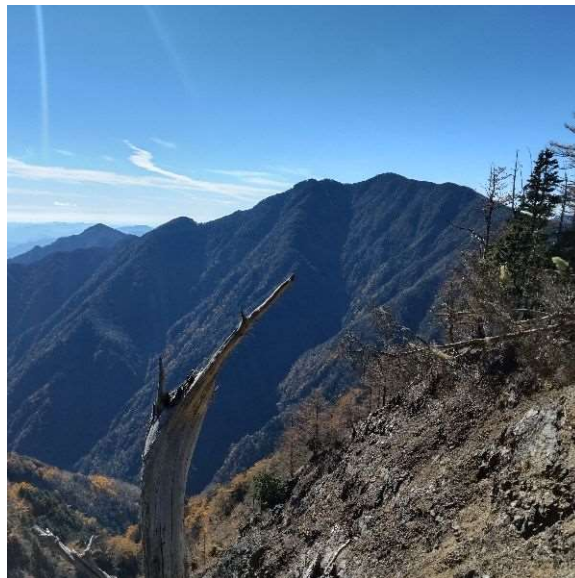
小無間山直下の崩壊地

11/6(日) 快晴

3時半に起床。朝はうどん入りのお味噌汁とご飯(ご飯は余分だったかも。食担反省)。夜明け前に大無間山へ出発。夜明けと共に木々の間から富士山が絵に描いたようにしっかり見えだしました。そして、今回の核心部である鋸歯から小無間山直下の登りへ。道の左右が大きく崩落している箇所があり、ロープが張られているものの足元は頼りなく、崩れだすとどんどん崩落し砂煙が立つ中、一人ずつ慎重に通過しました。講師よりロープは両手でしっかり持つよう声かけられました。

小無間山を越え、小さなアップダウンを繰り返しながら徐々に標高を上げていくと、シラビソの林の中にひょっこりと大無間山の山頂が現れました。山頂には南アルプスで甲斐駒ヶ岳、赤石岳、黒法師岳、大無間山の4カ所にしかない一等三角点が設置されているそうです。

時間が押していたので三方峰往復は諦め、小無間小屋までの道に戻りました。再び、崩落地を一人づつ気を抜かずに慎重に下りました。足元は崩れるし身体が振られやすいので嫌な下りでした。小屋に戻り「もう一泊したいね」と言いつつ荷物をまとめ、下山開始。入れ違いに2人連れの登山者が到着しました。今回の登山で出会ったのは、その人たちを含めて5人だけでした。前日よりも濃くなった紅葉の中をどんどん降りて行き、無事に下山しました。



遥かな大無間山

《ひと口感想》

大無間山。今まで馴染みがなかったが、なかなか手強い山だった。宿泊装備と水など15kgほどの荷物を背負って避難小屋まで1,000メートルあまりの急登でへろへろになり何度も休憩を入れてもらった。小屋ではスリングを使っての簡易ハーネス作りやフリクションヒッチ、テーピングの実技、心肺蘇生法などの講習を受け、忘れていたことを思い出した。明るいうちに夕食・懇談となり近況報告などして楽しい時間を過ごせた。

2日目、岩稜帯のアップダウンが続く鋸歯、崩落したザレ場の通過は緊張の続く行程だった。陽に照らされる紅葉や青空に浮かぶ富士山に目をやりながら、この季節この場所ならではの楽しさを味わうことができた。小無間山から大無間山までは、シラビソやダケカンバなどの気持ちのよい稜線歩き。長丁場13時間の体力勝負となったが、南アルプス深南部の魅力をたっぷり味わうことのできる充実した山行だった。丁寧に指導して頂いた秋田さんはじめ、たくさん写真を撮ったり、おいしい食事を用意したり、交代で運転して下さったメンバーの皆さんに感謝したい。(塚本)

アップダウンを繰り返す稜線歩きにへとへとになって現れた素朴な山頂。素敵なシラビソの森を楽しめました。木々の間から富士山が一日中奇麗に見えました。心配していた無人小屋も快適でした。(其阿弥)

苦勞して登った小無間山のさらに先の大無間山、遠い頂お疲れさまでした。連続する急登、薄い踏み跡、足元が崩れる尾根。普段なかなか経験できないワンランク上の山を味わって頂きました。達成感もひとしおだったと思います。今回の経験をぜひ今後の山行に役立ててください。(秋田)



大無間山頂上



ヒヤリハットで済まなかった事故 (山友会)

事故発生状況 山行リーダーの報告から抜粋 事故当事者 60代後半女性

2022.10.16 ハイキング部・オールラウンド部合同例会 綿向山～竜王山

午後1時頃 下山途中、もうあと15分で林道へ下山というところ。なだらかな下りで足元に木の根と落ち葉の混在する場所で発生。

応急処置・・・当事者は自力で立つことができず、三角巾の代用品で足首を固定。

救助搬出・・・登山道は比較的安定した状態だったので自力で歩行できない当事者を背負いスリングでお互いの体を固定し登山口まで搬出。

誰にも起こりうる事故です。

事故は他人ごとではありません。明日は我が身と思って行動してください

「山の事故をゼロに」ではなく、「防ぎ得た事故をゼロに」各自が気を付けましょう。

(事務局)



2022年 第1回代表者会議 議事録

- ◇日時 2022年11月9日(水) pm7:00~8:50
◇出席 山友会(豊田)・雪稜会(西村)・彷徨(谷内)
欠席連絡 岳友会(重井) ちごゆり(柴田)・シャクナケ(太田)
◇理事
出席 友永・川口・田中武・藤野・田中利・川嶋山元・宮内
欠席 上澤・村田・菅

◇議題

1. 県連3大行事について

- 6月の清掃登山 日程について 2023年6/4日 今年の4日間はどうでしたか
- 10月の登山祭典 2023年10/22 第4日曜日
- 交流山行について 現在まで6月1件(彷徨倶楽部)
9月3件(岳友会)(雪稜会) (山友会・天候不良中止)
11月1件(岳友会) 11/6実施

来年度に向けて

2. 座学入門教室・初級登山教室・ステップアップ講座等の来年度について

2. その他 議題の追加

自然保護部田中武理事から

- ① 放射線量測定について これまで滋賀県内の山で実施してきたが昨年度は県連自然保護担当理事が個人的に測定するような形で赤坂山、雪野山、鏡山で行った。比良雪稜会は以前から比良山系で実施してきた。

滋賀県連は、測定を実施出来るような体制やエネルギーが無くなりかけているが、今年度以降どうすべきか。今年11月3日に比良雪稜会は実施した。

- ② 今問題になっている山等でのメガ風力発電、メガ太陽光発電について、全国再エネルギー問題連絡会が署名活動を行っているが、山岳会として署名活動に参加してはどうか。(署名用紙は別添添付参照)

4. 宮内からの提案

★県連ニュースに交流山行以外にも、交流目的の個人山行案内を掲載しては。上澤理事)賛成です。

★一般募集のちらしに、年齢制限を入れてはどうか 65歳まで上澤理事)70歳までが適当だと思います。65歳は制限が厳しすぎるように思います。清掃登山、登山祭典・交流山行(一般募集が出来ればと思う)

議事録 それぞれの議題についての意見をまとめた議事録にしています。(順不同)

●県連3大行事という表現について

(西村) 県連3大行事に交流山行を入れるのはおかしい、理由は、県連主催ではないので。
(宮内) 県連2大行事に言い換えます。

●清掃登山・登山祭典の日程について

- 西村 県連として「清掃登山は6月第1日曜、登山祭典は10月第4日曜」の日程でいいと思うが、各会で柔軟に幅を持たせたら良い。
- 宮内 ちらしを作成しているのので、6月は、清掃登山月間、10月は登山祭典月間というように、実施日は、各会で決めて実施することにします。

●一般参加募集する清掃登山・登山祭典の年齢制限をチラシに記載する事について

- 西村 反対です。個人差がある。申し込み者の問い合わせに対して、各会が判断すればよい。
- 宮内 広報おおつに掲載する場合は、山名・日時・連絡先等しか掲載されないのので、主催会の対応が大変な場合があるので要注意です。広報おおつは、控えた方がいいかもしれません。
- 宮内 各会でちらしの中に年齢制限を入れてもよいことにします。

●一般参加者の保険料について

現在は、県連で3日前に一括申請して、立て替えて送金しています。
キャンセルされた場合、各会の負担でお願いしています。

- 谷内 県連で持つべきだと思います。
彷徨の清掃登山「雪野山」ですが、毎年当日参加してくれる「竜王町の山の会」の方々からは、保険料はいただいていません。その旨は伝えてあります。一般参加の人数として報告しています。
- 宮内 県連主催行事ということで、最終参加人数の保険料を徴収することにします。

●交流山行について

- 宮内 会員の交流が目的ですが、主催会の了解を得てHPにアップして、一般参加も可能にしています。

●初級登山教室について

- 宮内 今年を受講生5名(雪稜会3名・山友会2名)です。11/30座学 1/14実技を残すだけになりました。天候に恵まれ、実技は中止することなく9回すべて実施出来ます。講習会補助として、受講料1万円の半額補助をします。
- 谷内 参加者は、それなりにレベルアップしてきました。岩・沢の場合は、スタッフ2名に対して受講生1名がベストですが、スタッフが足りない場合があります。
- 西村 修了証とか認定証というものが出せたたらと思うが・・・
- 谷内 今年、とりあえず会員であれば受講できるとしたが、全くの初心者もいれば、経験者もいる中で、どこにレベルを合わせるのか難しい面がある。
- 宮内 次年度も継続開催で検討します。

●放射線量測定について

- 西村 比良雪稜会は、例会山行と位置付けて2コースで実施している。
放射線量測定は、今年で8回目になる。11/3に比良11か所で実施した。
飲み水調査(八雲が原以外は湧き水)は、6か所で実施、23回目になる。
水の状況、森の状況、山の状況を知る地道な活動だが会として続けたい。
- 田中武 県連自然保護部の事業計画案に明記されているので、年内に実施する方向で検討します。

●**県連ニュースに交流山行以外にも、交流目的の個人山行案内を掲載することについて**

西村 個人山行として掲載するのは、県連としてはどうかと思うが。

今県連ニュースに掲載されて「ステップ比良」も山友会の例会として、交流山行扱いにすればよいと思う。

宮内 山友会で個人山行・例会山行として案内しても、山友会の中では参加者が少ないので、県連ニュースに案内が出来れば、他会の会員にも会以外の山行が増えるので良いかと思って提案しました。県連の教育遭対部として企画すればよいのかもしれませんが。次年度に向けて検討します。

谷内 個人山行では、県連として責任がもてないのでは。

宮内 今年、主催者賠償責任保険については、県連年間行事として全国連盟に申請する方式でした。個人山行は対象外です。

●**全国再エネルギー問題連絡会の署名活動に山岳会として参加することについて**

報告 いろいろと話は出たが、県連として参加するには、至らなかった。

第8回 11月理事会 議事録(報告)

◇議 題

1. 登山祭典 10月23日実施報告は、県連ニュース12月号に掲載。

・広報おおつ 「音羽山」(ちごゆり担当)掲載済

一般参加者のきっかけ

広報おおつ、県連ちらし、以前の参加者へ会からの案内、会員の友人、知り合いから誘われた、

85歳の方が申し込まれて、お断りしたとの報告あり⇒広報おおつの掲載も検討要か(上澤理事) 85歳の方をお断りしたことは妥当だと思います。

一般参加 39名保険一括申請

★彷徨倶楽部からキャンセルされた一般参加者の保険料の負担について

県連で持つべきではないかと 清掃登山・登山祭典が対象

今までは、慣例のように徴収していたように思います。

上澤理事) 文章では、状況が良く判りません。

説明)

一般参加者の保険料は一人 100円徴収している会が納付する。県連が一括申請してから、当日キャンセルされた場合、参加費は、徴収できないので、その申請した保険代は、県連が持つべきではないかという意見です。

2. 教育・遭難対策部

○初級登山教室 ・10/2 実技「鈴鹿・釈迦ヶ岳」バリエーション地図読み 実施済

・10/15 実技「北小松しし岩」岩登り入門Ⅱ

初級登山教室は、天候に恵まれ実技は予定通り実施出来た。

2023年1月15日の雪山ハイク入門の実技で終了。

○座学 ・座学入門登山教室 10/4火 第6回 テント泊の基本

11/30の座学 雪山の基本知識(初級登山教室合同座学)で終了

3. 機関紙部 ・県連ニュース12月号 (エッセイ・写真・雪稜会)

4. 自然保護部 10/14 近畿ブロック自然保護委員会リモート開催の報告(別紙添付)

5. 財政部

7. 事務局から報告

★2023年4月2日近畿ブロック搬出講習会について

京都・滋賀主管の打ち合わせ 11月10日木曜日 午後3時から5時
明日都浜大津フリースペース。
出席 京都・青山・西村
滋賀・友永・宮内 予定

★事故報告 山友会 10/16例会 「綿向山～竜王山」60代後半女性
午後1時頃 あと15分程で林道に出るところで、木の根に滑り、残った足が木の根に引っ掛かり全方へ倒れる。男性会員が背負って下山できた。2か所骨折、手術。入院2か月間予定

★労山登山学校交流会 11/19土～20日 京都市左京区大原 民宿 大原山荘
彷徨・谷内氏 参加予定
参加費 実費のみ 一泊2食付き 10,000円 (講習会補助有)

その他 提案

- 第47回定期総会 2023年3月5日 大津ふれあいプラザ大会議室終日予約済
- 総会当日の午前中講習会の実施についての提案。

4回目になるので、少しステップアップして「読図山行の面白さ(仮)」

3/5は、座学「地図読み教室」と別途実技をセットで募集する内容で講習会を開催したい。有料でと考えている。1月から広報できるようにしたい。

◇組織数

合計人数 比較 ↓	山友会		岳友会		雪稜会		ちごゆり		彷徨		シャクナゲ		合計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
	30	34	18	10	24	20	7	12	5	3	3	2	87	81
10月/9月	64	64	28	28	44	44	19	19	8	10	5	5	168	170
前月比較		0		0		0		0		-2		0		-2

メモ

10/14 追加報告 一般社団法人 自然環境研究センターからアンケート調査の協力依頼
「鈴鹿山地でのカモシカ分布調査」実施期間 11月上旬～1か月程度の予定
滋賀労山として協力しますと返信。協力お願いします。

次回12月は 休会ですが、定期総会議案書作成用のデータを12月に入り送信しますので、よろしくをお願いします。

労山近畿ブロック自然保護委員会報告

日時：2022年10月14日（金）19時～20時30分

ZOOM会議で開催

参加労山府県：大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀 和歌山

報告事項（主立った事項）

兵庫県

- ・森林等を壊して建設される再生可能エネルギー発電所について、兵庫県としても問題と考え、全国再生可能エネルギー問題連絡会が行っている署名活動に参加することにし、活動開始した。

京都府

- ・京都市や京都府下に建設予定の北陸新幹線建設反対を京都労山として取り組んでいる。とりわけ京都市街は、大深度工事による計画がされ、地下水を使う豆腐店や酒造会社も危機感をもっており、署名活動を大文字山へのハイキング者や京都駅前で精力的に実施している。
丹後半島で計画されているメガ風力発電については、情報があまり入っていないので、ほとんど関わりを持ち得ていない。

滋賀県

- ・余呉・南越前ウインドファーム事業についても建設阻止のために滋賀労山会員の有志が熊森滋賀県支部とともに説明会に出向いたり、滋賀県知事に意見を出したり、建設に反対する人たちと連携し取り組んでいる。

和歌山県

- ・和泉山脈の風力発電計画は山岳会や地元から反対の声がまとまり建設阻止に動いているが、メガ太陽光発電所建設はなかなか反対の声が出て来ない。

【追記】

- ・リニア新幹線の建設で天竜川水系に流入する水が大幅に減るとして静岡県知事が JR 東海に異議を唱えているが、建設推進をよしとする人からきついバッシングを受けている。山や自然を守る立場からは、静岡県知事を応援したいので、皆さんも知事に応援メッセージを送って欲しい。（田中 武範より）

ぐうたら会長のつぶやき

このところの山の事故の傾向をみると下山時の事故が大半を占めます。当然といえば当然のことだと思います。頂上に到着しホット一息ついて、食事をすませ下山するわけですが、自分が思っているより体力も消耗しているだろうし、足の筋力も疲労しているのに加えて、引力に引っ張られながら下るのでスピードも上がりがちだし、上からの視線で見ているので細かい傾斜も認識するのが難しく、段差も判りづらくなっているのでも足を踏み外し勝ちです。慎重に歩いているつもりでもついつい下り足も早くなっていると思います。みなさんもそんな事を認識してくれぐれも下山時には細心の注意をはらって欲しいと思います。

先日久し振りに音羽山に行こうと思いました。10年ほど前に歩いた谷の状態も確認したいと思って出発したのですが、思ったより荒れていて浮石を踏んでバランスを崩しそうになり、もともと膝の痛かった右足で踏ん張ったため激痛が走りました。しばらく休んでシップ薬など塗って引き返しました。登り1時間のところを休み休み2時間ほどかけて何とか下りました。痛みをかかえていると慎重に行動するため時間がかかってしまいます。膝が痛くて歩き方が悪いので腰まで痛くなってきました。膝に限らず身体のだこかに不具合があると、体のバランスが崩れてしまいあちこちに支障が生じます。長年使ってきた身体ですから、これから命が尽きるまで大切に使っていきたいものです。以前にも書いたと思うのですが、体は使わないと怠けてしまいます。膝が痛くても少しは歩いて体に覚えさせておくのも必要です。今は3時間以上歩くと膝の痛みが酷くなるので、その範囲で歩くコースを考えながら歩くことにしています。もっとも半分以上は下山した後の王将で飲むビールが目的なんです……。

以上

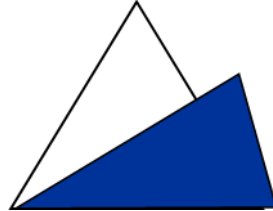
行事予定

月	日	県連・全国行事	月	日	各会の行事	会名	
12				4	青葉山・別名(若狭富士)	岳友	
				4	才例会 鈴鹿・釈迦ヶ岳～三池岳	山友	
				10-11	彷徨・CSS合同忘年会・忘年登山(蛇谷ヶ峰)	彷徨	
				11	鈴鹿縦走⑦小岐須峠～水沢峠	雪稜	
				11	総会・忘年会	ちご	
				11	鈴鹿山系・入道ヶ岳	岳友	
				17	忘年山行(愛宕山)・忘年会	雪稜	
				18	例会「草津～東海・栗東市内低山」	山友	
				19～20	浜石岳・白鳥山	雪稜	
		22-25	初滑り赤倉観光ゲレンデスキー(スキーネット)				
		28-31	赤倉観光ゲレンデスキー講習(スキーネット)				
				1	初日の出山行(権現山)	雪稜	
				2	愛宕山・初詣	岳友	
	7-9	パウダーフェス(スキー協行事妙高池の平)(スキーネット)					
				7～9	金峰山	岳友	
	11	理事会(ZOOM併用)					
1				8	新春山行(武奈ヶ岳)	雪稜	
	14	初級登山教室実技 雪山ハイク入門(大谷山)		15	才例会「明王の禿～赤坂山」	山友	
				22	ハ例会「大比叡」	山友	
	20-25	北海道ルスツ・ニセコ(スキーネット)		22	探鳥会	岳友	
	25	理事会(ZOOM併用)		22	交流山行「愛宕山」	ちご	
	27-29	スノーフェスタ(スキー協 平湯温泉)(スキーネット)					
	3-5	佐渡山山スキー・妙高ゲレンデスキー(スキーネット)					
				4～5	北八ヶ岳	岳友	
				5	綿向山	ちご	
	15	代表者会議(明日都浜大津)					
2				18～19	野伏岳	岳友	
	18-19	氷ノ山山スキー(スキー協行事 スキーネット)					
				26	マンダラ山	ちご	

会名略号 山友:滋賀山友会、岳友:湖南岳友会、雪稜:比良雪稜会、ちご:ちごゆり山歩会

シャク:シャクナゲ溯行クラブ、彷徨:彷徨倶楽部

スキーネット;山スキーネット滋賀、CSS:クライミング研究会滋賀 初級:初級登山教室



2023年1月号の原稿は、12月15日〆切です。
1月号の新年挨拶は会長、写真の担当は理事です。
原稿の投稿先は 宮内 m-miyauchi@ares.eonet.ne.jp
藤野 kawahaakebono@gmail.com
菅 nokomama.2016@gmail.com
宮内と両名にお願いします。

『県連ニュース2022年12月 NO.545号』

発行日：2022年11月20日

滋賀県勤労者山岳連盟

TEL 080-4971-6231

〒520-0047

Email shigarosan@gmail.com

大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F
大津市市民活動センタースモールオフィス内
メールボックス NO13

ゆうちょ銀行(店名418)

普通 0239956

<http://shigarosan.jimdo.com/>

発行責任者 宮内 眞子

編集委員 藤野 健太郎 菅 泉